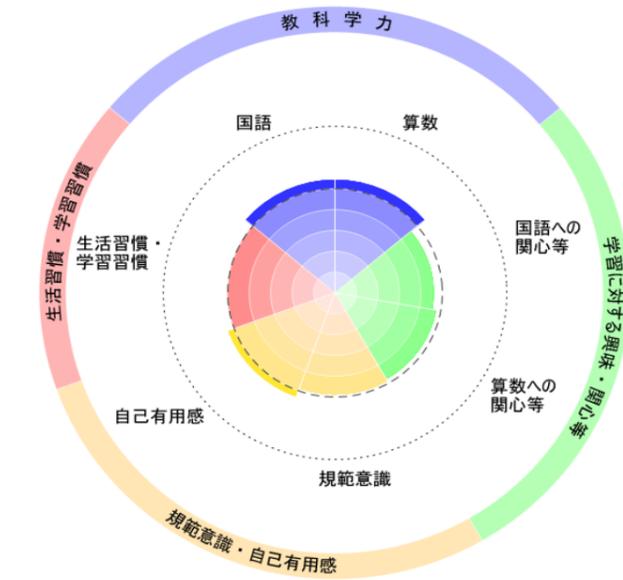


(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○全国分布に比べて、上位層に分布が寄っている。 ○指導要領の領域、評価の観点、問題形式のそれぞれの平均が全国を上回っている。 ○全国的に無解答が多い問題に対しても、解答している子の割合が高い。 ●同音異義語の漢字の書き取りで、全国平均とマイナス13.6ポイント差が出ている。 ●条件に合わせた解答が正確にできない傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館活用教育を継続して行い、文章読解のスキルアップや条件をつけての要約等、「読み取る力」、「表現する力」の向上に努めた授業を心がける。 ・ペア対話や全体対話を学習の中核にすえた対話型授業を進め、自らの考えを人に伝えることや、考えをまとめること、人の意見と自分の考えを比べながら聴くこと等の力を高める。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○全国分布に比べて、中間層が多く、下位層が少ない。 ○指導要領の領域、評価の観点、問題形式のそれぞれの平均が全国をほとんど上回っている。 ●条件に合わせた解答が正確にできない傾向がある。 ●長い説明の後に問いがあると、何を答えていいのかわからなくなる傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア対話や全体対話を中核にすえた対話型授業を進め、下位層も上位層も、ともに高め合うための学習課題の設定や授業展開の工夫を行っていく。 ・伝え合う場面では、伝えやすくするための図や算数用語の使用を積極的に取り入れる。 ・問題文で問われていることを丁寧に取り上げたり、児童自身に言い換えをさせたりして、情報整理の力がつくようにする。

(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



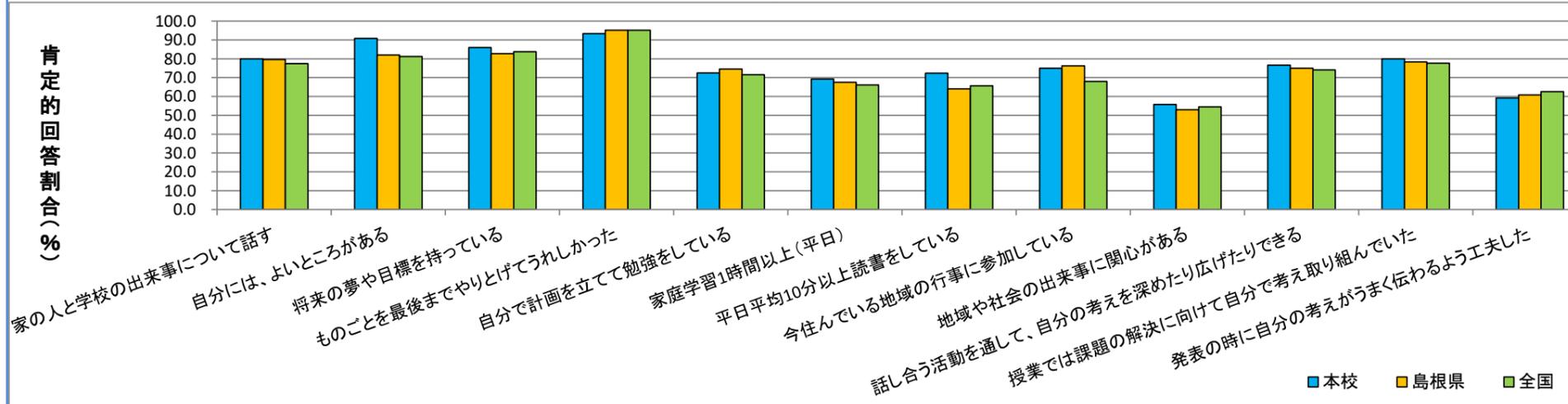
(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や未来に対して肯定的な感情をもっている児童の割合が高い。 ○読書をしている子の割合が特に高い。 ●国語や算数の学習に対する関心意欲が全国平均に比べて低い。 ●発表をわかりやすく工夫しようとする子の割合が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ？」から始まる授業を心がけ、子どもが興味・関心を高めていくようにする。 ・ペア対話や全体対話などの対話型授業を積極的にを行い、友達の意見を聴いたり、自分の意見を話したりする喜びを味わわせる。

(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・誤答の多かった問題を手掛かりに、どんな力があれば正答できたのか考え、具体策を学年部ごとに検討した。それらの具体策を実施すること。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

	本校	松江市	島根県	全国
国語	68	63	62	63.8
算数	69	66	65	66.6

受検者数 118人
 ※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。